

脱炭素燃料 ワーキンググループ

WG 概要

バイオ燃料・水素を活用した燃料供給・利活用による事業化を目指して、地域の未利用資源（農業・畜産業残渣や廃棄物など）や水素などを最新技術により脱炭素燃料に変換するサプライチェーンの構築を目指すためのビジネスモデルを検討

脱炭素 への 貢献

- ✓ 水素・CO2を活用したカーボンリサイクル燃料の製造・利活用、運輸・産業部門に対する燃料としての水素利活用、藻類・廃棄物・エネルギー作物由来のバイオ燃料製造・利活用等を通じた燃料の脱炭素化

関連キーワード

バイオ燃料 | バイオガス | バイオリファイナリー | 農業残渣 (バガス) | エネルギー作物 | 廃棄物油化 | メタネーション | 水素 | 合成燃料 | エタノール | メタノール | CCU | ISCC認証

目指す 姿

- ✓ 水素に係る浜通り地域周辺での需要家特定及び県外からの需要家誘致の進展
- ✓ 各脱炭素燃料のキープレイヤーを特定し、サプライチェーン構築に向けた本格的な取組に着手できている状態

これまでの取組

- ✓ 枠組み検討を推進すべく、燃料事業者、運航事業者、電気事業者等をメンバーに迎えた
- ✓ 航空機燃料としてSAF導入を検討すべく、サプライチェーン構築に向けた検討に着手 (R4)
- ✓ グリーン水素を活用した脱炭素化をテーマに設定 (R4)
- ✓ 脱炭素燃料の利活用を検討している地域に対して、課題感・ニーズのヒアリングを実施 (R5)
- ✓ 現在、WG事務局不在のため、WG未開催

現状及び事業化に向けた課題

- ✓ 事業化検討に向けた、WG事務局の立ち上げ
- ✓ 水素サプライチェーンの構築にあたり、価格競争力・供給安定性の強化が必要である
- ✓ 水素需要の拡大に向けて、産業部門・運輸部門におけるニーズを確認したい
- ✓ 産業団地において水素利活用が推進できるような環境構築が必要である
- ✓ 地域課題を解決し、地域特性から生まれる脱炭素燃料の発掘

今後の取組方針

- ✓ 脱炭素×復興まちづくりに資する事業として、地域特性を考慮し、未利用資源（農業・畜産業残渣や廃棄物など）や水素（FH2R等との連携可能性の模索）を利用し、最新技術を用いて脱炭素燃料に変換するサプライチェーンの構築するためのビジネスモデルを検討予定（農業WG、物流WGとの連携も視野）

今後のスケジュール

	R6	R7	R8	R9	R10
検討	➡				
実証			➡		
事業化				➡	

プラットフォーム関係者へのメッセージ

- ✓ 事務局の立ち上げにご協力ください！
- ✓ 地域課題である「雑草」を資源に燃料を作るような発想で脱炭素燃料のアイデアから募集！
- ✓ 脱炭素燃料の需要家誘致にあたっては、情報連携による周知活動が肝要となります。ご協力いただける事業者様のご紹介をお待ちしております！
[連絡先]mirai_shikou@env.go.jp
03-3581-2788
(環境省／プラットフォーム事務局直通)

ワーキンググループ参画事業者

- ✓ (株)えこでん
- ✓ 応用地質(株)
- ✓ 日本エヌ・ユー・エス(株)
- ✓ 大成建設(株)
- ✓ 郡山観光交通(株)
- ✓ 西松建設(株)
- ✓ 全日本空輸(株)
- ✓ 日揮(株)
- ✓ 日鉄エンジニアリング(株)
- ✓ デロイト トーマツ コンサルティング (合)
- ✓ (株)IHI
- ✓ 全国農業協同組合連合会 (JA全農)
- ✓ 齋藤 拓也 (弁理士・正林国際特許商標事務所)
- ✓ (一社) 高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会